



54+

JAPAN MOVE UP WEST

SPECIAL FRONT INTERVIEW
映画『雪の華』

登坂 広臣 × 中条 あやみ

(三代目 J SOUL BROTHERS from EXILE TRIBE)

SPECIAL INTERVIEW

E*Gfamily

Dream Ami / Dream Shizuka / 鷺尾伶菜 / 佐藤晴美 / MIYUU / 須田アンナ

SPECIAL COLUMN

EXILE TETSUYA



2019年、JAPAN MOVE UP WESTは、
エンターテインメントの力で、岡山県を始め中四国エリアにさらなるムーヴメントを起こすため、
FREE PAPER、EVENT、WEB等、従来のメディアを多角的に活用し、
まち、人、お店などを“つなげる”メディアとして、皆様にサービスを提案していきます。



JAPAN MOVE UP WEST 実行委員会 加盟企業一覧 (2019年2月11日現在)



special partner コカ・コーラ ボトラーズジャパン株式会社 イオンモール岡山

JAPAN MOVE UP WEST 賛同企業加盟 - その他お問い合わせは右記まで JAPAN MOVE UP WEST 実行委員会運営事務局(株式会社HEADLINE WEST) TEL:086-250-8089



登坂 広臣 × 中条 あやみ

(三代目 J SOUL BROTHERS from EXILE TRIBE)

映画『雪の華』 SPECIAL FRONT INTERVIEW

初共演の2人が語る、フィンランドで紡いだ“余命一年の恋”の舞台裏！

2003年に大ヒットし、今なおウィンターラブソングの名曲として愛され続ける中島美嘉の「雪の華」。その世界観にインスパイアされた、切ない大人のラブストーリーが誕生した。

幼いころから病気がちで、夢を見ることをあきらめてきた美雪と、ガラス工芸家を目指しながら妹弟の面倒を見る青年・悠輔。とある事情から“期間限定の恋人”契約をした2人の不器用で一途な恋を、美しい映像、音楽とともにつづっていく。

余命1年を宣告され、長年の夢を叶えようと勇気を振り絞る美雪役には『3D彼女 リアルガール』『ニセコイ』など主演映画が続く中条あやみ。自分の運命を受けいれながらも、残された時間を前向きに生きようとする美雪の輝きを、チャーミングに演じ切る。美雪との“契約”をしぼしぼ受け入れながらも、しだいに美雪に引かれていく悠輔役に三代目 J SOUL BROTHERSメンバーとして絶大な人気を誇り、『ホットロード』以来5年ぶりの恋愛映画出演となる登坂広臣。一見、ぶっきらぼうで不愛想だが、実は心優しくまっすぐな悠輔の内面や、美雪と心を通わせていくにしたがって生まれる変化を繊細に演じ切る。

共演は高岡早紀、浜野謙太、箭内夢菜、田辺誠一。監督は『orange オレンジ』『羊と鋼の森』で高い評価を得ている橋本光二郎。

本編の半分を彩る、夏と冬の長期フィンランドロケで撮影した北欧の街並みや幻想的な雪景色など、目を奪われるほどに美しい映像も大きな見どころ。撮影期間中は、マイナス20度が当たり前と言われながら、幸いマイナス10度前後だったとのことだが、日の沈む直前の撮影や、雪の中を疾走するシーンなど、ハードな撮影も少なくなかった様子。それを乗り越えた2人が演じるクライマックスは、中島美嘉が歌う「雪の華」と一つになった、はかなくもいつまでも心に残り続ける美しいシーンとなっている。

冬シーズンにはもはや欠かすことのできないウィンターラブソングの名曲から生まれた、この冬必見のウィンターラブストーリー。

撮影・上岸卓史 登坂広臣 ヘアメイク・千絵 (H.M.C) スタイリスト・葛西“JUMBO”克哉 (speed wheels) 中条あやみ ヘアメイク・横山雷志郎 (Yolken) スタイリスト・maiko

今なお冬のベストヒットソングとして愛され続ける中島美嘉の名曲「雪の華」が、発表から15周年を迎えて、切ない大人のラブストーリーとして生まれ変わった。『ホットロード』以来5年ぶりの恋愛映画となる登坂広臣と、映画やドラマ、雑誌、広告にひっぱりだこの中条あやみという人気の2人が初共演!

幻想的な雪景色の中で最高に切なくて温かい感動に包まれる映画『雪の華』がいよいよ公開。同作で共演した2人に、雪の日の思い出を聞いてみると…。

中条あやみ(以下:中条):6年ほど前、東京に大雪が降ったときがあったのですが、それがちょうど雑誌の撮影日。当時、私は大阪から通っていたんですけど、都心であんなに雪が降るなんて思っていなくてヒールのある靴だったので、帰り道に転んだりして(笑) 同じモデルの子と一緒にギューギューのバスに乗って、やっと渋谷駅までたどり着いた覚えがあります(笑)

登坂広臣(以下:登坂):僕は中学生のときの話なんですけど、すごい雪の降ったバレンタインの日の思い出ですね。

中条:何それ(笑)!

登坂:バレンタインの日って男の子は1日、楽しみじゃないですか。学校に行ったら下駄箱にチョコが入っているかなとか、机に入っているかなとか、ロッカーかなとか(笑) 僕も当時、好きな子がいたので、その子がくれないかなと思っていたんですけど全然くれるそぶりがなくて。結局、女子の友達から義理チョコをもらって家に帰ったんです。その日はずっと雪が降っていたんですけど、夜にその子が家に来たんですよ。雪まみれになりながら、手作りのチョコを作っていたから遅くなっちゃったけど日付が変わる前に、って。僕はすごく感動して、そのチョコを食べた思い出があります。あまり美味しいとは言えませんでした(笑) しっかりと全部食べました。

中条:素敵な思い出!

登坂:そうですね(笑)

そんな2人が、この冬、最高に切なくて温かい感動作『雪の華』で共演。2003年に大ヒットした中島美嘉の名曲にインスパイアされたオリジナルストーリー。幼いころから病気がちで夢をあきらめ続けてきた主人公・美雪(中条)が、姉弟の面倒を見ながらガラス工芸家を目指す青年・悠輔(登坂)と出会い、とある事情から、100万円を出す代わりに“期間限定の恋”を持ちかける…という物語。歌の世界観がまさに視覚的に迫る幻想的な雪景色は、実際に極寒のフィンランドロケで撮影されたもの。

中条:今回、クランクインがフィンランドで、しかもいきなりクライマックスのシーンからだったので本当に緊張しました。ただでさえ初日は緊張するものなので本当に、ああどうしようって気持ちでした(笑) でも、美雪と悠輔が現地のガラス工房に行くシーンも撮影したんですが、その工房が素敵で、いろんな色のガラス作品を眺めているうちに

気持ちも落ち着いてきて、少し緊張がほぐれました。飾られているガラス作品がどれもすごくかわいくて、なんだか温かい場所だな、って。

登坂:本当に、初日からクライマックスのシーンを撮影するというのは難しかったですよね。出会って、ある程度関係性を作っている設定なので、最初からその感じを出すのも大変でしたし、慣れない異国の地での撮影というのもあったので、探りながら進めていきました。日本にいるときに事前に本読みなどもしていましたけど、やはり現場の空気感が大きく影響してくるものなので、そういう意味でもフィンランドロケはどうなるか現場に立ってみないと感覚がつかめない部分もありましたし。

中条:現地には20日間ほどいたんですが、現場や作品のことを考えるくらいしか他にあまりやることが無かったのが良かったのかも(笑) おかげで作品に集中して、美雪のことを深く考える時間も持てました。

登坂:橋本光二郎監督とも、そのつど話すことができたしね。

中条:そうですね。橋本監督は、どんなシーンにしたいかをすごく分かりやすく明確に伝えてくださるので、私自身も一つひとつのお芝居をきちんと理解しながら演じることができましたし、シーンを撮るごとに監督と細かく確認し合うことができたので、極寒のフィンランドでも、とても安心していました。橋本監督で良かったな、と思います(笑)

登坂:確かに(笑)

100万円で期間限定の恋人になる、という美雪の突飛な契約に戸惑いながらも、2人の時間を心から楽しもうとする美雪に、しだいに心引かれていく悠輔。しかしついに“秘密”が明かされ…。

中条:完成作を見たら、登坂さんと撮影していないシーンが思ったより多くて、美雪の知らない悠輔の姿が新鮮でした。日本でもフィンランドでも、たくさん走っていましたね!

登坂:走りました(笑) けっこう大変だったんですよ、特にフィンランドでのシーンは。

中条:あと橋の上で“うわーっ!”って叫んだりしていましたよね! あれは監督のアイデアですか?

登坂:そう。あれは監督から(笑)

中条:だと思いました(笑) アドリブかな、でも登坂さんはこういうアドリブをしなさそうだし…と思って。

登坂:確かに(笑) でも本当に、美雪と悠輔がそれぞれの家族という場面が、すごく印象的でした。もちろん2人の恋愛が主軸ではあるんだけど、その2人を取り巻く家族や親しい人との絆もきちんと描かれているのがいいなと思いました。僕は、美雪とお母さんのシーンがけっこうグッときました。

中条:私も悠輔と姉弟たちとのシーンがすごく好きでした。

登坂:今回、当然2人で撮影することが多かったんですけど、2人でいるシーン以外の撮影は別々なので、家族といるときなどのお互いのパーソナルが見える表情は完成したときに初めて見たので余計に印象的だったんです。この場面、美雪の気持ちを作るの大変だったろうとか、いろいろ発見があったので。美雪って演じるのがすごく難しいキャラクターだと思うんです。病気を抱えていたり、100万円を払って恋人になってもらおうとしたり。でも勇気を振り絞った美雪の行動で物語が動

美雪と悠輔がそれぞれすごく印象的でした。

いていき、僕はそこに巻き込まれていく立場だったので、中条さんが監督と打ち合わせをしている姿なども横で見ていて、大変だろうな、と思っていました。

中条:大変でした(笑) でも以前に『きっと、星のせいじゃない』という洋画を見たことがあって、何となく美雪と状況が近いなと思ったんです。そうしたら監督から“『きっと、星のせいじゃない』という映画を見ておいてください”と言われて(笑) その作品はとても参考になりました。まあ、美雪はちょっと…というか、かなり個性的なんですけど(笑) これは監督ならではのイメージが生かされたキャラクターだったと思います。

登坂:僕もそう思う(笑)

中条:逆に悠輔は登坂さんのイメージも大きく生かされていましたね。最初、台本には悠輔が美雪に対してけっこう強い口調で接している姿が書かれていたけど、登坂さんが“悠輔だったら美雪に対してこんなふうには言わないと思う”とおっしゃって。脚本に書かれていることにプラスして、自分のアイデアや思いも、そのつど監督に相談していて、さすがプロだな、と。悠輔のキャラクターが優しくなったのは登坂さんのおかげですね(笑)

登坂:絶賛“いい人キャンペーン”中だから(笑)

中条:私も、その悠輔のほうが好きだなと思えたので助かりました!

そんな2人が協力して挑んだ最も難しかったシーンが…。

中条:やっぱり美雪が悠輔に“100万円で恋人になって”と持ち掛けるシーンです。リハーサルを何度もやって…。

登坂:そうそう。どちらかのテンションが下がって

れの家族という場面が、



撮影・上岸卓史
登坂広臣 ヘアメイク・千絵 (H.M.C) スタイリスト・葛西"JUMBO"克哉(speed wheels)
中条あやみ ヘアメイク:横山雷志郎 (Yolken) スタイリスト:maiko

たり、上がりすぎてたりすると、どんどん息がチグハグになってしまっ。行くなら行く、みたいな、勢いが必要な場面でもあった。そこも動き出しが美雪からなので、本当に大変だったでしょ。

中条：あれをどう受け止めるかという登坂さんのお芝居も難しかったですよね。完成作を見るまで、あの場面が一番、心配でした。

登坂：クランクインする前も、してからもリハをやっ、すごいエネルギーを使ったね(笑)

中条：あれは、美雪だから言えたセリフなんでしょうね。美雪は、あまり人と関わってこなかったせいでちょっとズレているところもあって、でもそんな彼女だからこそ勇気を出して言えただろうなと思いました。

そして芽生える切ない恋。特に“雪が似合う”2人がつむぐ、冬のフィンランドロケの映像は幻想的。

登坂：確かに、中条さんは雪が似合うなと思っていました(笑)

中条：雪の写真を、お互いに撮り合ったりしましたね。登坂さんが、まるで広告のような私の写真を撮ってください(笑)

登坂：撮影中の中条さんを、僕がカメラで撮ったんです。“雪が似合うね、JRのポスターみたいだよ”と言ったら“実際にやっていますけど”と言われて…失礼しました(笑)

中条：いえいえ(笑) 私もよく現場のオフショットを撮っていたんですが、登坂さんは現地のホテルなどでも雰囲気があったりでしたね!

もし自分がカメラマンだったらお互いのどんな“雪ショット”を撮る?

中条：そうですね…雪の中でクマと戦っている登坂さんとか。

登坂：出川哲朗さんか!(笑)

中条：しかも勝ってる、みたいな。

登坂：ははは(笑) なるほど、迫力ある系の写真ね。

中条：それが地味に、氷に穴をあけてワカサギを釣ってるところ、とか。

登坂：地味か迫力あるか、どっちかなだね(笑) 僕が中条さんを撮るとしたら…温泉。雪の中で温泉に入っている、みたいな。

中条：それもCMみたいですね(笑)

登坂：じゃあ次にそういうCMの写真があったら僕が撮ります(笑)

雪の風景が似合う2人はまさに中島美嘉の名曲『雪の華』から抜け出したかのよう。

中条：今回、中島美嘉さんの曲をもとに作らせていただくにあたって、私はまず中島さんがどんな方なのかを知りたいと思い、いろいろ調べて、そこから美雪のキャラクターをイメージしていったんです。でも、最初の本読みどきに監督とお話させて頂いてちょっと違うということに気づき、方向を変えました。でも中島さんがこの曲に込めた思いを持って美雪を演じさせていただいたので、それが少しでも伝わればうれしいです。

登坂：僕の中高生時代に日本中で流行った楽曲ですけど、今も歌い継がれていて、今回こうやって映画になることで、リアルタイムに聞いている世代にも改めて中島さんの曲の魅力を伝えられたらうれしいです。僕としては、かつて自分が聞いていた曲がまさか映画になって、しかも自分が演じるなんて想像もしていなかったんですが、こうして中島さんの曲と、葉加瀬太郎さんが奏でる音楽と、僕らがフィンランドまで行って撮影した映像が一つになって、僕にとつての『雪の華』が生まれたような気がしています。

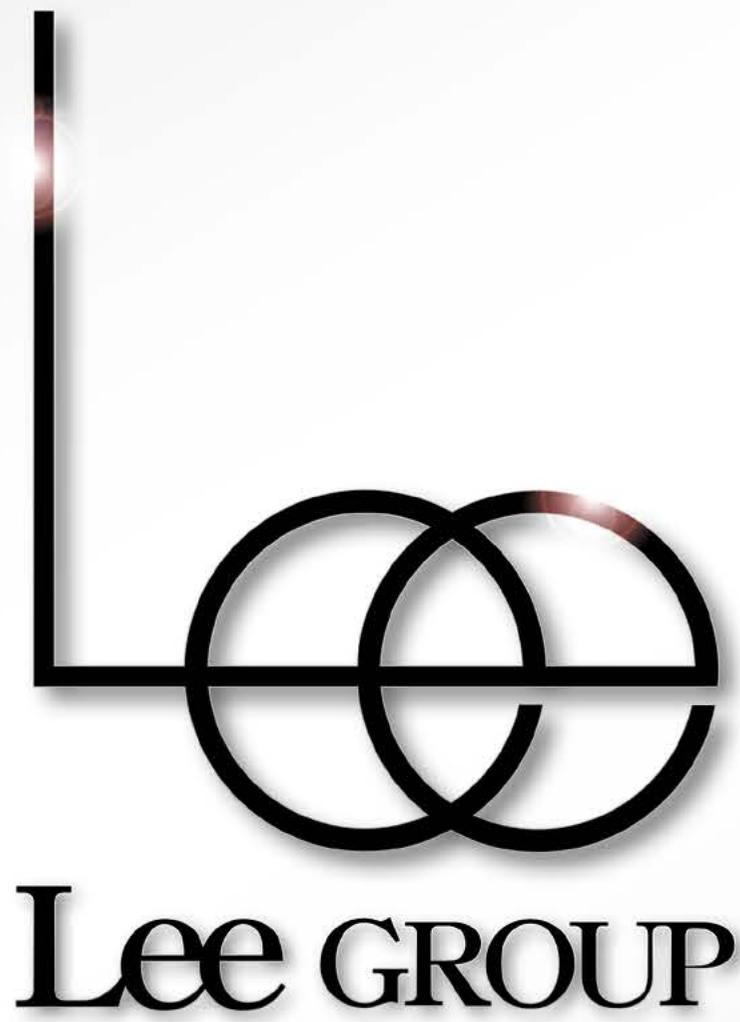
聞く人、見る人それぞれの心に自分の“雪の華”が舞い降りる、そんな映画が誕生した。

『雪の華』イオンシネマ岡山 他 全国にて公開中



監督：橋本光二郎 脚本：岡田恵和 音楽：葉加瀬太郎
出演：登坂広臣、中条あやみ、高岡早紀、浜野謙太、箭内夢菜、田辺誠一他/
2時間5分/ワーナー・ブラザース映画配給/ yukinohana-movie.jp ©2019 映画「雪の華」製作委員会





MARUHACHI



HEADLINE WEST



社員募集

お問い合わせ 応募受付専用フリーダイヤル

0120-930-422

本社：〒700-0925 岡山県岡山市北区大元上町12-14

E.G.family

どんな年にしたいか聞きました！

ツアー、そして2019年は



佐藤晴美

E.G.familyの新たなスタート。未来につながる1歩となるツアーにしていきたいです。ツアーが終わって下半期からは、準備の年にしたいと考えています。今、自分がやるべきことは何かということを考えて、自分を作り上げていきたいです。今年もそうですが、ここ2年ぐらいは準備の年だと思っています。

Dream Shizuka

E.G.familyにとって、このツアーは大事なライブになっていくと思っています。実際に始めてみないと、自分たちがどう変化していくか分からないですけど、ツアーを終えたとき、それぞれが次の未来に向かってしっかりと進んでいけるようなライブにしたいです。自分にとって新しいスタートを切らせてもらうのがこのツアーです。その意味をしっかりと考えて、自分をもっともっと知ってもらえるように頑張りたいですね。

撮影・髙野裕
ヘアメイク・大貫希代美 (Luana)、加藤恭子 (Luana)、永井友規 (Luana) スタイルリング・後藤 則子 (Post Foundation Inc.)



Dream Ami

5月まではツアーに全力投球します。このツアーを経て、E.G.familyというプロジェクトをみんなに知ってもらいたいと思っていますし、知ってくださったみなさんにプロジェクトを応援して頂けるように頑張りたいです。E.G.familyは、このツアーのためだけにできたプロジェクトではなく、自分たちの属している場所であるんだということ、それを提示していきたい。E.G.familyがそこにいるみんなが自由にやれる場所としての基盤を作っていく、今年はそういう時でもあると思っています。

鷺尾伶菜

2019年はこのライブツアーから始まります。ツアーのタイトルに「POWER to the DOME」とあるので、このツアーを終えたときに、自分たちがその次の年に向けて、成長していなければいけないと思っています。次につながるビジョン、歩く道を作る1年にしたい。自分自身についても同様です。自分ができることや、自分の未来を想像して、歩いていく道を作りたいと思っています。

MIYUU

久しぶりにみんなで集まって、ライブを作るということは、みんなにとっても私個人にとっても、とても大きいこと。さらにもうひとつ上のステージにいけるようにならなければいけないと感じています。ツアーのステージで得たものを、それ以降、それぞれのグループが大きな夢に向かっていくための糧にしていければと思います。

須田アンナ

E.G.familyのライブはもちろん、E-girls、Happiness、スダンユズユリーとしても個人としても妥協をしない1年にしたいと思っています。「次があるから次で」とか「今は仕方ないね」という妥協はなしで行きたい。勢いのある1年にしたいと思っています。

Special Interview

ガールズエンタテインメントプロジェクトのE.G.familyがホールツアー『E.G.POWER 2019 ~POWER to the DOME~』をスタートする。22日の大阪・オリックス劇場での公演を皮切りに、全国26都市33公演で展開。プロジェクトとしては初となる全国ホールツアーについて、Dream Ami、Dream Shizuka、鷺尾伶菜、佐藤晴美、MIYUU、須田アンナにインタビューした。

——昨年12月に、E.G.family初のホールツアー開催の発表がありました。このメンバーでステージを作るのは久しぶりだと思いますが、一緒に作業をしてみて、感じることは？

Dream Ami (以下、Ami) : 本当に久しぶりです。私は「みんなとの空気ってどんな感じだったっけ？」というところからのスタートでした。ただそれまでは何年も一緒にやってきましたので、すぐにいつもの空気になれました。

Dream Shizuka (以下、Shizuka) : 探りながらの期間もありましたし、それぞれの進め方やルールもあると思いますが、感覚が戻ってくるのはすぐでしたね。

鷺尾伶菜 (以下、鷺尾) : また、こうしてみんなで一緒にいると安心感がありますよね。

Shizuka : 一緒にいることで安心するって！

Ami : うれしいですね(笑)。みんなに会って思ったのは、この1年半の間に、それぞれがそれぞれの立場でいろいろなことを感じて、考えて、いろいろなことを背負って、頑張ってきたんだなということです。会議やこうして話しているときも含めて、みんなの発言から感じます。

Shizuka : 一人ひとりが成長して、大人になったなぁと感じました。誰が、どのグループがということじゃなくて、それぞれがちゃんとみんなを引っ張っていつてる。以前は自分たち(Dreamのメンバー)が率先して話し出すとか、スタートをどうするか決める感じでしたけど、今はそんなことを心配しなくても想いやアイデアを持っているメンバーがどんどん発言してくれるし、引っ張っていかなくやという気持ちは、それほど強くなった気がしています。

鷺尾 : E-girlsが11人になって、これから自分たちでやっていくんだ、新しいE-girlsを作り上げなければいけないんだとそれを意識するだけで、物事のとらえ方や重大さ、責任感が、こんなに違うんだと、改めて感じました。

佐藤晴美 (以下、佐藤) : うん、そうだね！

須田アンナ (以下、須田) : 今は、みんなが会議の場で発言しようという気持ちになったのは成長したってことなんだと思います。

MIYUU : ちゃんと説得力のある発言とか行動をしていかないと、また先輩方に甘えてしまうと思って、リハーサルに入りました。でもやっぱり、先輩方の安定感はすごい。すごく刺激になっています。

MIYUU : ツアーのキックオフソングだからインパクトがある曲を！と『POWER GIRLS』になりました。ロック調の曲で、力強い女の子の感じが楽曲にも出ています。メンバーも一発でこれだねって。前の作品から1年4カ月もお待たせしたけど、自信を持って「私たちはHappinessです！」っていえる曲になりました。Happinessらしさがあって、成長も見て頂ける楽曲です。

——Flowerの『紅のドレス』はバラード曲。



——ツアーのキックオフソングが次々に配信リリースされています。まずはE-girlsの『EG-ENERGY』が12月に、2019年最初はスダンナユズユリーの『LOOK AT ME NOW』ですね。

須田 : めちゃめちゃHIP HOPで、色に例えると赤黒いようなイメージの曲に仕上げました。楽曲タイトルの『LOOK AT ME NOW』のように、私たちを見て、今の私たちはこの1年半でこれだけの自信をつけましたという意味表示のような、挑発的な歌詞になっています。今までのスダンナユズユリーだったら言えなかったようなことを歌っています。このチャンスを逃したくない！って、3人ですべてを詰め込みました。

——次がHappinessの『POWER GIRLS』。タイトル通りというか、それ以上の楽曲ですね。

鷺尾 : Flowerとしては1年半ぶり、5人体制になって初めての楽曲です。最初という意味も含めて、自分たちにはどういった曲がいいのか考えました。ファンの人たちが私たちに求めてくれている楽曲……それはきっとバラードなんだろうなと思いました。それをよりパワーアップさせようと、和楽器を取り入れたりしています。ミュージックビデオもすごいんですよ。初めてサポートダンサーを交えてパフォーマンスをしています。振付は晴美が担当してくれました。

佐藤 : この曲は、メンバーみんなが好き。1年半ぐらい前かな、リリースも何も決まっていなかったのに、みんなで振付を作っていたんです。

——では、佐藤さんが振り落としもして。

佐藤 : はい。照れちゃって教えるの苦手なんですけど、頑張りました。

Ami : 晴美ちゃんは、踊ってる時と、しゃべっているときのキャラが違いすぎるよね(笑)

鷺尾 : 違いますよー！ミュージックビデオの晴美さんは全然違う。びっくりしちゃいます！

——さて、Amiさんの『Good Goodbye』は、劇場版『えいがのおそ松さん』の主題歌。

Ami : ライブで歌うことはもちろん意識していますが、映画の主題歌という役目をいただいたのでそこにも全力で応えたいと思い制作しました。ツアーのキックオフソングとしてそれぞれがそれぞれの『E.G. POWER』をテーマに曲を選んで作ってきて、私自身も自分らしさを伝えられる作品にできたかなと思っています。

——そして、Shizukaさんの『かなしみから始まる物語』は、ツアーはもちろん、ソロとしての新たなスタートにもなる曲です。

Shizuka : 1度きりしかないスタートなので、どういった自分でみなさんの前に立つのがいいのかと考えました。たどり着いた先は、自分がこの仕事にあこがれたとき、自分の声で歌詞の世界観を届けられる人になりたいという思いを思い出してバラードに決めました。この曲は前から大好きだった曲で、いつか形にしたいと思っていた楽曲でもあります。その曲でスタートを切れるのは、うれしいですね。

——ありがとうございます！ホールツアーが早く見たくなくなりました！

Ami : 自分たちでも、どんな感じになるのか楽しみです。

ツアーオフィシャルサイト

E.G.POWER 2019
~POWER to the DOME~

<http://egpower.info/>

DANCEの道

EXILE TETSUYA “男を上げる” Monthly Column

叶えられた祈り

新年明けましておめでとうございます。
本年も自由気ままに、DANCEの道を書いて行きたいと思いますので、どうか宜しくお願いいたします。

今年のお正月休みは、実家に帰ったり、挨拶回りをしたり、COFFEE 農園に行ったり(笑)、ライブに向けてのトレーニングを始めたりと、充実したお休みを頂きましたが、8日に仕事初めを迎えまして、2019年のスイッチがバッチリ入ってきました!!

元旦に、机に座って、書き初めをしようとして筆を取ったのですが、なんだかいい言葉が浮かばずに、書いては捨てて、書いては捨ててを繰り返していたら、とある人生の先輩からお年玉だよと、素敵なお言葉をいただきました。

無知識な僕は、この言葉は誰が作ったのか、誰にアテたものなのか、本当はどんな意味があるのかはわかりませんが、自分にとって、とにかく意味深くて、考えさせられる、素敵なお言葉でした。

有名な言葉なのですが、良かったら読んでみてください。

大きな事を成し遂げるために

力を与えて欲しいと神に求めたのに
謙遜を学ぶようにと弱さを授かった

偉大な事を出来るようにと
健康を求めたのに
よりよき事をするようにと病気を賜った

幸せになろうとして
富を求めたのに
賢明であるようにと貧困を授かった

世の人の賞賛を得ようとして
成功を求めたのに
得意にならないようにと失敗を授かった

人生を楽しもうと
あらゆるものを求めたのに
あらゆるものを喜べるようにと
命を授かった

求めたものは一つとして与えられなかったが
願いはすべて聞き届けられた
神の意にそわぬ者であるにもかかわらず



心の中の言い表せない祈りは
すべてかなえられた

私はあらゆる人々の中で
もっとも豊かに祝福されたのだ

皆さんはどう感じましたか?

人それぞれ感じ方は違うかもしれませんが、僕は2019年、この言葉の意味を深く考える1年にしようと思います...

今年も、EXILEを始め、LDHファミリー、各グループ、各メンバー、スタッフ一同、みんなで力を合わせて2019年から2020年に向けて、最高に盛り上げるべく頑張っていきたいと思いますので、本年もどうか変わらぬ温かい応援をよろしくお願い致します。

EXILE TETSUYA (^o^v)感謝
BEST

TOKYO HEADLINE vol.714 より

19歳よりダンスを始め、EXILE PROFESSIONAL GYMにてインストラクターを務める。2007年に、二代目 J Soul Brothersのメンバーに抜擢され、2009年2月25日に、アルバム『J Soul Brothers』でメジャーデビューを果たす。そして、同年3月1日にEXILE新メンバーとして加入し、2011年には、THE SECOND from EXILEとしても活動を始める。また、個人活動として2011年に月刊EXILEにて、自身が所長を務める『EXILEパフォーマンス研究所』の連載を開始する。2014年4月、淑徳大学文学部表現学科の客員教授に就任する。そして、2015年4月にEXILE USAが活動を行っているDANCE EARTH PARTYの正式メンバーに選ばれる。2018年3月、早稲田大学大学院スポーツ科学研究科を卒業。そのほか、役者としてドラマや舞台に出演するなど、さまざまな活動を展開し、エンターテインメントの可能性を広げている。

vol.6 関戸 健二

54 ×



JAPAN MOVE UP WEST
選手のここで見える事の出来ない素顔を知って地元Jリーグチームを応援しよう!

01.チーム内でのニックネームは?

—— **けんじ・けんじ君**

02.子供の頃はどんな子だった?

—— **おとなしい子供**

5歳の頃に兄の影響でサッカーをはじめました!

03.最近の癒しは?

—— **息子です。**

家にいる時は常に癒されています!! (笑)

04.よく聴くアーティストや曲は?

—— **backnumber・ナオトインティライミ**

お気に入りの曲というより全般的に聴いている感じがかな。

05.チームメイトと1日入れ替わるなら誰になって何をします?

—— **#1椎名くん**

普段の自分は大声をあまり出さないのが
大声を出して過ごしてみたい。(笑)

06.女性どんな仕草にグッとくる?

—— **笑顔**

07.いつもカバンの中に入っているものは?

—— **財布・携帯**

基本カバンを持ち歩きません。(笑)

08.最近ハマっていることは?

—— **息子の寝かしつけかな。**

どんな動きで抱っこしたら寝るかな〜って研究しています。

09.オフの日の過ごし方は?

—— **家族で美味しいものを食べに出掛けます。**

最近食べて美味しかったのはスパイスの効いたカレー (笑)

10.沖縄キャンプでのエピソード何か教えて!

—— **#28ハディ(ファイヤッド選手)に
日本語を教えて仲良くなりました!**

yellowは、きいろだよ!みたいな感じで (笑)

11.頑張った自分へのご褒美は?

—— **カレー!!!!**

奥さんに好きなものを作ってもらえることかな〜
カレーをリクエストする時もあります! (笑)



MF17

素顔の関戸選手に **11問 11答** でお答えいただきました!!

関戸 健二 -せきど けんじ- 1990年1月7日 175cm/68kg 神奈川県出身

ファジアーノ岡山の王子としてサポーターに人気で、ピッチでは豊富な運動量でチームに貢献。普段は、大人しくて静かなイメージの関戸選手。しかし、息子さんの前では絵本を読み聞かせたり、一緒にお風呂に入って『あったかいね〜』などたくさん話しかけてお話ししています。と、イクメンエピソードを教えてくださいました。

photography : 宗村 和磨 (NEMURA FILMS) ©2017 F.O.S.C.

もっと!! インタビュー選手の素顔が見える!! **JMUW WEB限定**

JAPAN MOVE UP WEST × ファジアーノ岡山

5秒で答えて!

JAPAN MOVE UP WEST



日常を感じる音楽を
聴いて下さい。

ピアノとドラムと歌。

玉川(以下、玉):2人がJ-PoPユニットバンドUNBRANFORDを組んだきっかけを教えてください。

矢田(以下、矢):元々の出会いは大学生の時。最初はお互いそれぞれで音楽をやっていました。前身バンドを経てなんやかんやで今に至ります。

パンツゴンザレス哲朗(以下、パ):担当パートや曲調も、ピアノボーカルの矢田とドラムコーラスの僕だったらどんな表現で音楽を伝えていくことが出来るのか、そんな出会いや考えがあり今のUNBRANFORDがあります。

玉:自分たちの音楽で伝えていきたい、発信していきたいことはありますか？

矢:アーティストさんってきっと非日常を表現するとか、そんな世界観をライブとかで表現していることが多いと思うのですが、僕たちは日常にでてくる感情を表現した音楽を発信しています。みなさんの身近にある、触れ合える音楽を伝えていけたら良いなと思います。

パ:作詞作曲は共同制作。皆さんの普段の日常生活の中で、僕らの音楽に共感してもらえたら凄く嬉しいです。

玉:楽曲はどんな風に使っていますか？

パ:普段の日常を切り取ることを大切にしています。共感性というキーワードを念頭に置きながら、皆さんに寄り添うような言葉をセレクトして曲を創っています。この言葉や曲調ならどうなるだろう、どう思われるのだろうと考えるのが楽しいです。

玉:4月20日(土)に開催されるワンマンライブに向けて意気込みを教えてください。

パ:ワンマンライブは2回目になります。結成して4年目という節目のスペシャルライブにもなると思うので、今まで活動してきたこと、今後に繋がられるようなこと両方の意味合いを持ったライブにしたいなと思っています。

矢:シングルリリースは8枚目。そんな記念ライブにもなると思うので、楽しみにしておいて欲しいです。アーティストとしてもレベルアップがしたくて、今回はライブ会場もクレイジーマミングダムに。色々な意味で皆さんと一緒に成長している僕らの姿を見て聴いていただけたら嬉しいです。

玉:夢に向かって頑張っている人たちにアドバイスをお願いします。

パ:夢に向かっていって最初は色々結果がついてこなかったりするし、自分が頑張ったことに対して伴ったことって中々返ってこないと思うので、挫折しがちにもなったりしますよね。でも活動を続けていくことが一番大事なことだと思っています。継続は力なり、だと思います。

玉:これからの2人の夢を教えてください。

パ:僕たちの音楽を聴いてくれる方が増えれば増える程、楽曲を作っている意味も増してくるというか。良い意見であっても悪い意見であっても真っ直ぐな声のみなさんから返ってくるのが嬉しいんですよね。今年ももっとメジャーになってもっともっと沢山の方々に僕たちの音楽を聴いて欲しいです。

矢:音楽を通して僕たちの思いを伝えられたらいいなと思います。ファンの皆さんや、これから曲を聴いてくださる方々と音楽を通してしっかりコミュニケーションをとってみたいです。

二人組J-PoPユニットバンド

UNBRANFORD

アンブランフォード



矢田 俊介 やたしゅんすけ (写真左)
 キーボード兼ボーカル
パンツゴンザレス 哲朗 (写真右)
 ドラム兼コーラス



Interviewer **玉川 洋輔**
 シンガーソングライター
 facebook・Twitter・Instagram:
 玉川洋輔で検索

Profile

松浦友美

合同会社 PECCO 代表 / ポーセラーツサロン Pecco 講師
 日本ヴォーグ社認定 ポーセラーツインストラクター
 ガラスフュージングインストラクター
 日本・彩色チャイナペインティング倶楽部認定講師
 【Blog】 <http://ameblo.jp/porcelarts-pecco/>
 【Instagram】@porcelarts_pecco

「おかえり」って言える、

お母さんになりたくて。

―――上昇するアイテムに息子さんとの写真を選んだ理由を教えてください。

松浦友美(以下:松):私はシングルマザーとして8年になるのですが、親としてどういう姿を子供に見せるべきかとも悩んだ時がありました。だから、少しでも「ママすぞい!」と思ってもらえるような、自慢したくなる母親を目指するために、自分が生き生き仕事をしなければいけないと思って、好きなことを仕事にしようとした時に出会ったのがポーセラーツでした。どんな仕事にしても頑張っている姿を見せれば親子共々元気に暮らしていけるんじゃないかなと思ったのと同時に、子どもの笑顔が活力になっているので息子との写真を選びました。

ポーセラーツ

シール感覚で使える転写紙で、
白磁に自由に上絵付けできるハンドクラフト

―――ポーセラーツを始めたきっかけを教えてください。

松:息子が小学生に上がるタイミングで「おかえりなさい」って言えるお母さんになりたくて、家でできる仕事って何だろうと考えた時に、たまたま女性雑誌にポーセラーツが載っていたんです。でも、『岡山 ポーセラーツ』で検索してもなかなか雑誌で見たようなポーセラーツがなく、資格は取ったのですが、当時活動する場がなく、認知もされておらず、岡山で出会ったポーセラーツは都会で流行っているポーセラーツとは全然違う物でした。岡山でももっとキラキラしたポーセラーツを広めたいと思い、岡山にはない技術を取得し、持って帰るために神戸へ勉強に通いました。「『習いたい』がきつと見つかる、ポーセラーツサロンPecco。」をモットーに生徒さん一人一人のニーズに合うレッスンを心がけていて、ポーセラーツのもっと奥深いところまで学べるスクールが岡山にはなかったのでポーセラーツで色々なことを学んでもらいたいと思いスクールを開きました。自分が学んだ事を生徒さんにお伝えして喜んでもらうことで自分の中での達成感や充実感も違ってくると思うのでそれが頑張る糧になって子育ても仕事も頑張っています。

―――ポーセラーツの魅力を教えてください。

松:元々人に喜んでもらえることが好きだったので、私が講師として生徒さんにお伝えしていることも、生徒さんが誰かにプレゼントした時に喜んでもらえたりすることが活力になって私も頑張れるんです。あとは、オリジナルが作れるということ。雑貨屋さんで買えるものもたくさんあるけど、心を込めて作ったオリジナルのものはお金では買えないと思うので自分のオリジナルを作れるということもポーセラーツの魅力だと思います。

―――今後の夢・目標を教えてください。

松:生徒さん一人一人のニーズに合う内容をヒアリングしながら作っていくことで生徒さんの喜ぶ姿を見られるので、そのためにもっとたくさんの事を学びたいです。もっと早くポーセラーツを知っていたら...と思っていた時もありましたが、沢山の経験値があるからこそ活かされるものもあって、今この状況になったからわかる事もあれば、わからないかった事もあります。自分の向かいたい先を想像し自分のなりたい自分を創造すれば、自ずと道が見えてくると思うので、日々向上心を持ち続けてポーセラーツをたくさんの人に知ってもらって、たくさんの人に喜んでもらうことが私の今の目標です。

PECCO代表 / ポーセラーツインストラクター

松浦 友美

Matsuura tomomi

ジャンルレスに

本能のままに。

BAZ-K(以下:B):アイテムにリングを選んだ理由を教えてください。

YAS(以下:Y):僕が代表を務めるレーベル『PartyGunPaul(パーティガンポール)』(以下:PGP)のクルーのみんなから、3年前の誕生日にサプライズでもらったものです。オーダーで作ってくれていて、ライブがある時には必ず身に付けているし、他のアクセサリをつけていなくてもこのリングだけは必ず身に付けているとても大切な物です。

B:これまで地元津山で活動されてきたと思うのですが、岡山市内に来てみて今のHIPHOPシーンはどうでしょうか？

Y:地元津山も、岡山市内も良い意味で客観視できるようになりました。日本全国色々な所に行ったけど、単純に津山は面白い街の一つとして見れるようになりました。自分が今、津山に住んでいない分、津山で活動している仲間は凄いなと思いますし、津山の仲間が活躍しているところを見るとすごく嬉しいです。岡山市内に来て、音楽関係に限らず、アパレルや飲食店やクラブ関係の友達もたくさんできて津山と岡山が1つになった感じがしています。

B:3月31日にワンマンライブを控えています、前回のワンマンとの違いはありますか？

Y:ワンマンは基本的にアルバムだったり自分の音源制作のリリース記念としてやって来たんですけど、今回は新しい地での挑戦だと思っています。今まで津山でやってきた音楽を今回は岡山でできるということもあって、岡山市内に来てからできたたくさんの友達にもきて欲しいですね。岡山市内の友達はまだアーティストとしての僕を見たことがある人は少ないので、岡山で新しく出会ったたくさんの友達でいっぱいになりたいです。もちろん津山の『PGP』のみんなも来てくれると思うのでお互いに成長した所も見てもらいたいです。

B:レーベルの他にも、アパレル業や飲食業もされていますがはじめたきっかけは何だったんでしょうか？

Y:将来『PGP』の誰かが、アパレルや飲食業と音楽を並行してやっていけるようにやりやすい環境を作りたかったというのがありますね。クルーと一緒に海外や沖縄に行くのは、家族旅行みたいな感覚でもあるけど、買い付けに行ったからには自分にはない感覚だったり、必ず何かを得て帰って来て欲しいのが願いです。

B:アーティストとしての今後のビジョンはありますか。

Y:自分がやりたいことをやる。音楽に関しては、東京に出たりというのは全然考えてなくて、岡山でやっていきたいという思いがあります。PGPには、大きい街に挑戦している仲間も沢山いるので、そういった仲間のバックアップもしつつ、自分はライブハウスやクラブはもちろん、場所を問わず等身大の音楽をじっくり届けていきたいと思っています。自分のやりたいことを本能のままに、ジャンルレスでやっていきたい。

B:今後の夢を教えてください。

Y:まずは、3枚目のアルバム"TRIBE"のワンマンLIVEをしっかり成功させること。アパレルや飲食に関しても、もちろん一生懸命やっていきます。

だけど、一番長く基盤として続けているのがレーベル『PGP』なので、今まで以上にもっとモチベーションを上げてやって行く。津山・岡山市内に限らず、全国で頑張っている若い人たちにも『PGP』のアーティストになりたいと思ってもらえるように、自分も頑張ります。才能のあるアーティストが『PGP』から、もっと大きくなってくれたら、最高だと思うのでレーベルの音源制作やイベント運営に力を入れて行きます。ルは力を入れていきたいです。

■YASワンマンライブ

2019年3月31日(日) @YEBISU YA PRO
 OPEN/17:00 START/18:30

2012年に岡山津山から【逆ピラミッド】をコンセプトに、今を生きるための「強烈なリアル」を世界に発信するHIPHOPインディペンデントレーベル:PartyGunPaul(パーティガンポール)のCEOであり、ラッパー。

【YAS Official Instagram&Twitter】@yas_pgp

【Official web page】http://partygunpaul.com/

【Official Instagram】@PARTYGUNPAUL_OFFICIAL

『PartyGunPaul』代表取締役/ラッパー

Y A S
 ヤス


YAS (写真右)
 『PartyGunPaul』代表取締役/ラッパー



Interviewer **BAZ-K** (写真左)
 株式会社バズクリエーション代表取締役



JAPAN MOVE UP WESTの更なる活動の浸透と広がりを実現するために、
より具体的かつ大胆に様々なジャンルの“Rise!〜上昇〜”をバックアップ。自身の心にある熱い想い、夢などを聞く。
Rise!の先には必ず人間の生きる意味、生まれてきた意味が見えてくると確信する。

JAPAN MOVE UP WEST



02 interview

Rise!
JAPAN MOVE UP WEST **NEXTER**

松浦 友美

01 interview

Rise!
JAPAN MOVE UP WEST **ARTIST**

YAS

03 interview

Rise!
JAPAN MOVE UP WEST **ARTIST**

UNBRANFORD

FREE ^{JMUW} vol.36
Feb. 2019

Rise! FRONT INTERVIEW

ARTIST Y A S

Rise! INTERVIEW

NEXTER 松浦 友美

Rise! INTERVIEW

ARTIST UNBRANFORD



FAGIANO OKAYAMA

関戸 健二

5+4

JAPAN MOVE UP WEST